

保育室内の物的環境分析による幼稚園・保育所の比較

椛島香代*・安達祐亮**・尾田芽衣花**・小出美緒**

幼稚園・保育所の保育室内環境について、3歳児、5歳児学級の事例検討を行った。その結果、次のことが明らかになった。幼稚園では情緒の安定への配慮が5歳児では少なくなっていくのに対し、保育所では学年にかかわらず年間を通して行われている。保育所では保育室の用途が保育時間によって変化するのに対して、幼稚園では学級で保育室を専有することができる。保育時間の長短や施設・設備、園の保育運営によって、保育者の環境構成に対する配慮が異なる。

Key Words：保育環境，保育者の役割，幼稚園，保育所

I 問題の背景と目的

現在、子ども子育て支援法成立（内閣府・文部科学省・厚生労働省）に伴い、幼稚園、保育所共に認定こども園への移行を進める動きが出てきている。一方で、それぞれの特徴を生かすためにこれまで通りの運営を続けるという保育現場もある。幼保一元化といいつつも保育現場は様々な在り様が存在している現状がある。しかし、いずれにせよ、幼稚園と保育所が今まで以上にお互いを理解し交流する必要がある。今後は幼稚園教諭、保育士が人事交流する場面も増えてくることが予想できる。幼保それぞれの保育の特徴を改めて知る必要がある。

幼稚園・保育所の違いは何か。法令上定められた運営方法や幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている内容を単に比較するのではなく、その保育実践の現状実態に迫ることはできないか。幼稚園、保育所お互いがそれぞれの抱えている問題や、保育運営の実態について理解して初めて一元化に向けての第一歩となると考える。保育は、幼児の実態、各園の保育方針、地域性などさまざまな要因にあわせて行われている。まずはある観点にしぼって資料を収集し

* 人間学部児童発達学科

** 文京学院大学ふじみ野幼稚園

比較するところから始める必要がある。私たちは、保育環境に注目した。幼稚園、保育所共に環境を通して行う保育である点においては共通であるが、問題は環境の質である。保育者は、子どもが過ごす環境をどのようにとらえ、構成しているのだろうか。物的環境について調査し、比較することで保育者の意図をよみとることが可能になる。また、幼稚園と保育所で最も大きな環境の違いは、保育時間である。幼稚園は4時間を標準（文部科学省）としているのに対し、保育所は8時間を原則（児童福祉施設最低基準）としている。乳幼児が日中の8時間もの時間を過ごす保育所では、長時間保育に対する配慮や保育運営が当然必要になるはずである。

今回の研究では、幼稚園、保育所における保育室環境に注目した。理由は、幼児は自分の学級の保育室で過ごす時間が一番長く、愛着を持っている、担任である保育者の意図が最も環境構成に表れやすいと考えたためである。幼稚園、保育所の保育室環境事例を分析し、それぞれの場を構成した保育者の意図をよみとり考察することで、幼稚園、保育所の保育環境の違いを明らかにしていきたい。（柁島）

II 研究方法

具体的に保育実践を比較するために、幼稚園、保育所の学級の事例検討を行う。幼稚園は満3歳から小学校就学の始期に達するまでの幼児を対象（学校教育法）とするため、保育所でも幼児クラスを対象として抽出した。今回は、実践者が担任をしている3歳児学年と5歳児学年をとりあげ、各学級の事例の比較検討を行う。また時期による変化もとらえるため、各学級の4月と10月の状況も観察した。それぞれの事例について保育者の意図をよみとり、考察する。

対象：埼玉県内A幼稚園3歳児学級、5歳児学級

埼玉県内B保育所3歳児学級

埼玉県内C保育所5歳児学級

調査方法：幼稚園、保育所において対象学級の4月、10月の指導計画と室内教材を調査し、3歳児、5歳児についてそれぞれ学年ごとに比較を行う。

調査時期：年度当初の4月と半年後の10月で調査を行い、指導計画や室内環境の変化を比較する。室内環境は、教材の種類や場の使い方などを記録する。（柁島）

III 指導計画からみた幼稚園・保育所の保育

以下に示す表は、幼稚園3歳児4月10月（表1, 2）、5歳児4月10月（表3, 4）保育所3歳児4月10月（表5, 6）、5歳児4月10月（表7, 8）の各月指導計画の抜粋である。幼稚園、保育所共に保育者は、対象学級について実態をとらえながら指導計画を立案していることがわかる。4月は、それぞれ程度の差はあれ、どちらの学年も担任や環境が変化することに対して不安になる幼児がいることを予測している（表1, 3, 5, 7）。対象とした幼稚園では、バス通

園の幼児もおりバスの時間帯の変更に伴って配慮が必要になる（表2）、保育所では、8月に縦割り保育を行った結果徐々に異年齢に対する興味が芽生えている（表6）など幼児集団の質の変化、園全体の一日の流れや場の使い方などの保育運営と幼児の実態、配慮点が関連している。幼稚園、保育所共に幼児の実態を把握しながら園の環境や運営の特徴に合わせて保育が展開されている。保育者は、施設・設備などの制約を配慮しつつねらいを達成するために環境構成を工夫したり、援助方法を考察したりしていることがわかる。また、3歳児では一人ひとりの遊びの充実を図る（表1, 2, 5, 6）、5歳児10月には（表4, 8）友達関係が密接になり、幼児が様々な葛藤場面を経験し乗り越えることができるよう配慮している。

このように、幼保ともに、子どもの成長の方向には大きな違いはなく幼児教育の場として機能している。それぞれが幼児に必要な経験内容を提供し、就学に向けて成長・発達を促している。（梶島）

表1. 幼稚園3歳児 4月の指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | 4月から入園し、家庭生活から集団に入る為、保護者から離れることに不安を感じる。また、家庭と幼稚園とでは生活環境が異なる為、戸惑いを感じる。そして、集団生活が初めてである為、友だちとのかわりが分からず、物も取り合いのトラブルが多くなる。一方で、自分の遊びを見つけて一人で遊び込む姿もある。 |
| ねらい | 園生活に慣れ、できることから行う。 |
| 教材 | ・家庭にもあるようなレゴやプラレール、ぬいぐるみを設定する。 ・ままごとの材料・道具や粘土、お絵描きの紙・クレパスを数多く用意する。 |
| 教材選択の意図 | 初めての集団生活である為、不安になる子が多くなることが予想される。その為、家庭でもよくみかけるような教材を設定することで、家庭と似たような雰囲気の中で安心して過ごせるように配慮する。 また、一人ひとりが自分の遊びに集中して行えるように教材を数多く用意しておく。 |

表2. 幼稚園3歳児 10月の指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | 2学期になって1ヵ月経ち、生活に慣れてきた。登園・降園バスの時間に変更があり、生活時間が変わって混乱する子もいる。 |
| ねらい | 生活の中で自分のできることを増やしていく、新しい生活に慣れる。 |
| 教材 | ・長期休み前に子どもたちが興味を持っていた教材を用意する。 ・形合わせや上から車を走らせ段を落ちていく様子を繰り返す楽しむ教材を置く。 |
| 教材選択の意図 | 7月中旬から9月上旬まで長期の休みがあり、家庭での生活に慣れ、幼稚園に登園する時には不安を感じる子がいることが予想される。その為、長期休み前の幼稚園での出来事を思い出して安心できるよう、長期休み前の教材を用意しておく。また、個で遊べる教材を用意し、少しずつ幼稚園生活に慣れるようにする。 |

表 3. 幼稚園 5 歳児 4 月 指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | A 幼稚園では、進級と同時にクラス替えや保育室の移動が行われる。園での生活経験が 1～2 年ある 5 歳児であっても、進級当初の新しい環境に不安を感じている。昨年度築かれた友だちとの関係が、新しい生活を送る上で、安心できることの 1 つとなっており、クラスを越えて旧クラスの友だちと過ごすことが多い。また、年少児の世話や年長ならではの当番活動なども始まり、年長としての役割が求められる。 |
| ねらい | 新しい環境に慣れ、自分のペースで生活をする。 好きな遊びを見つける。 |
| 教材 | ・レゴブロック、粘土などを設定する。 ・昨年度、経験したことのある大型積み木を設定する。 |
| 教材選択の意図 | ・レゴブロックや粘土など個人で遊び込むことができる教材を設定することで、新しい生活の中でも、自分の居場所やすることが見つけられるようにする。 ・経験したことのある大型積み木を設定することで、新しい生活の中でも、やってみよう、してみたいといった気持ちを持てるようにする。 |

表 4. 幼稚園 5 歳児 10 月 指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | 10 月初めの運動会を通して、集団で 1 つのことに取り組む楽しさや達成感を味わえるようになってきた。親しい友だちだけでなく、様々な集団と共通の目的を持ち、それに向かって取り組む意欲が育っている。一方、自分の思いと相手の思いを調整することができずに、意見がぶつかったまま遊びや活動が停滞し、保育者が仲介して意見を調整したり、折衷案を出したりする援助が必要である。 |
| ねらい | 友だちの思いを受け入れ、友だちや保育者と一緒に取り組む。 |
| 教材 | ・段ボール、カラービニール、マット、ひな壇など柔軟な使用用途のある教材を設定する。 ・変身ベルト、カラータイマーなど子どもたちが遊びの中で製作したものを設定する。 |
| 教材選択の意図 | 柔軟な使用用途のある素材を多く設定することで、子ども同士が意見を出し合い、必要なものや場を作り、遊びが継続、発展するようにする。遊びの中で製作したものを設定することで、自分のイメージを友だちに伝えることや、相手のイメージに気付くことができるようにする。 |

表 5. 保育所 3 歳児 4 月 指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | 2 歳児の頃からの持ちあがりの子が半数いる中で、半数は 3 歳児から入園している状況である。持ちあがりの子も保育室や担任が変わり、不安になりやすい。3 歳児から入った子も家庭から保育所生活になり不安になる子もいる。 |
| ねらい | 新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 |
| 教材 | ・2 歳児の時に使っていたままごと道具やブロックを設定する。 ・お絵描きや粘土、ブロックを数多く用意する。 ※ブロックに関しては①子どもの顔くらいのブロック②手の平サイズのレゴブロック③平面を組み合わせて立体を作るブロック (jovo) を設定する。 |
| 教材選択の意図 | 3 歳児になり、部屋の雰囲気が変わったり、新入所児が入ってきたり、保育者が 1 人担任になったり、と 2 歳児とは違う環境の変化がある。その為、2 歳児の時に慣れ親しんだ教材を設定して安心できるようにする。 新入所児は、保育所生活が初めてである子や他の保育所から来る子であり、人も場所も新しいことである為、不安になることが予想される。その為、家庭にあるような教材を用意したり、数を多く用意したりして、安心して一人で遊び込めるようにしていく。 |

表 6. 保育所 3 歳児 10 月 指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | 1年通して集団で生活している中で、集団での生活に慣れてきている。また、8月のお盆期間中に縦割り保育が多く、異年齢との交流が盛んである為、年長児の遊びに興味を持って行っている。 |
| ねらい | 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じる、簡単なルールのある遊びを知り少人数で楽しむ。 |
| 教材 | ・トランプやかるたなどのカードゲームを置く。 ・ままごとやブロック、粘土などの教材は4月と大きく変えない。 |
| 教材選択の意図 | 保育所の子どもたちは長期の休みはなく、8月も登所している子が多い。その中で異年齢との交流を持つ機会があり、年長児の遊びに興味を持つ。その為、保育室にもカードゲームを用意し、簡単なルールの遊びを同じ年齢の子ども同士でも遊びも楽しめるようにする。人間関係の育ちは見られるが、長時間保育の疲れが出たり、家庭環境が不安定だったり日々不安になる子が多い為、一人で遊び込めるよう4月当初の教材を多く置いておく。 |

表 7. 保育所 5 歳児 4 月 指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | 進級したことを喜び、新入園児や異年齢児の世話を積極的に取り組んでいる。これまでの経験を支えにして、4月当初から友だち同士のかかわりがみられる。一方で、日中過ごす保育室が変わること等で緊張や気負いも感じている。そのため、些細なことで不安になり落ち着きがなくなったり、友だちとトラブルになることもある。 |
| ねらい | 新しい保育室や生活に慣れ、友だちとの遊びや生活を楽しむ。 |
| 教材 | ・前学年でも使ったことがある玩具を設置する。 ・レゴブロックやドミノ、粘土を設置する。 |
| 教材選択の意図 | 保育者は、保育室の変化など進級に伴う精神的負担を軽減し、一人ひとりが自分のペースで遊ぶことができるような教材や遊びを設置している。前の学年で使ったことがある遊び慣れた玩具があることは、どのように扱ったらよいか遊びの見通しが立ちやすい。レゴブロックやドミノ・粘土は数量も多く他児と貸し借りをしなくても良いようにしている。5歳児といえども4月当初は自分のしたい遊びに満足して取り組み、徐々に新しい生活に順応していくことができるように配慮している。 |

表 8. 保育所 5 歳児 10 月 指導計画抜粋

| | |
|---------|---|
| 実態 | 園の生活習慣は概ね身につけ、自分らしく過ごすことができるようになる。日中は、友だちのペースも考えながら遊びや生活を進められる姿が見られるようになる。意見の食い違いからトラブルとなることもあるが、友だちの意見を受け入れたり自分の意見を主張したりしながら自分たちで生活を作りだしていく。 |
| ねらい | 友だちと互いの思いを出し合いながら遊びを進める。 |
| 教材 | ・数人のグループで使用するカードゲームを設置する。 |
| 教材選択の意図 | 友だち同士で意見を出し合ったり、気持ちを調整し合うことを促すことができるような教材を選択している。 |

IV 幼稚園・保育所の比較

1. ねらいの比較

幼稚園・保育所の指導計画におけるねらいを比較するため、3歳児のねらいを表9、5歳児のねらいを表10にまとめた。

まず、3歳児について検討する（表9）。4月のねらいは、幼稚園、保育所共に情緒の安定や生活に慣れていくことがねらいとして挙げられている。これは、共に進級当初の子ども達にとって、担任や保育室が変わるといった今までと異なる環境が、生活への安心感に大きく影響するためと考えられる。幼保共に、新学期は幼児の情緒の安定を図る必要があることがわかる。

10月のねらいは、幼稚園において「新しい環境に慣れる」という4月と同様のねらいが挙げられている。これは、10月に通園バスの時間帯が変更するという生活の変化が、3歳児にとっては情緒の安定に影響を及ぼすため、ねらいとして挙げられていたと考えられる。対象とした幼稚園がバス時間の変更を行ったために表れたねらいであり、このことは保育運営が幼児の情緒の安定に影響することを示している。また、保育所においては「友だちと一緒に」「少人数」など友だちとのかわりを意識したねらいが挙げられている。これは幼稚園が夏休みの中、保育所では8月も通常保育が行われるため、子どもたちのコミュニケーションの経験を重ねることができるためであると考えられる。

幼稚園、保育所共、3歳児は些細な環境の変化に敏感に反応し情緒が不安定になりやすいことを踏まえ、保育者は幼児の生活の変化をきめ細かく予測かつ把握し、ねらいをたてている。長期間の夏休みがない保育所は、継続して幼児が登所し保育所生活が安定的に営まれるため幼児同士の交流の経験を積み重ねることができる。各園の行事や保育運営との関連で幼児の経験をとらえ指導計画を立案していく必要がある。保育者自身が長期的な見通しを持ち配慮していくことが幼児の情緒の安定を図るために重要である。

表9. 幼稚園・保育所3歳児 指導計画（4月・10月）

| | 4月のねらい | 10月のねらい |
|------------------------|---|---|
| 幼稚園 | <ul style="list-style-type: none"> 園生活に慣れ、できることから行う 楽しいと感じる遊びに出会う 保護者と離れて過ごす 保育者に親しみを持つ | <ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、自分のできることを増やしていく 新しい生活リズムに慣れる（バスコース変更のため） 自分の好きなことを見つけて楽しむ 小集団での遊びの楽しさを知る |
| 保育所 | <ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、安心して過ごす | <ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる 簡単なルールのある遊びを知り、少人数で楽しむ |
| 配慮事項：子ども一人ひとりの情緒の安定を図る | | |

表10. 幼稚園・保育所5歳児 指導計画（4月・10月）

| | 4月のねらい | 10月のねらい |
|--|--|---|
| 幼稚園 | <ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に慣れ、自分のペースで生活をする 好きな遊びを見つける 新しい友だちや保育者とかかわる | <ul style="list-style-type: none"> 園生活のルールを見直す 遊びに意欲を持って取り組む 友だちの思いを受け入れ、友だちや保育者と一緒に取り組む |
| 保育所 | <ul style="list-style-type: none"> 新しい保育室や生活に慣れ、友だちとの遊びや生活を楽しむ | <ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、共通の目的を見出し、活動に取り組もうとする 友だちと互いの思いを出し合いながら遊びを進める |
| 配慮事項：一人ひとりが安心して過ごせるように、個々に楽しめる玩具を用意する。 | | |

次に、5歳児について検討する(表10)。4月は、幼稚園、保育所共に、新しい生活へ慣れることがねらいとして挙げられていた。これは子ども達にとって、ある程度の生活経験がある場であっても、進級することによる新しい保育室やクラスメイトとの出会いは生活に大きな変化をもたらすため、生活への安定を目的としたねらいとして挙げられていたと考えられる。10月のねらいでは、「思いを受け入れる」、「思いを出し合いながら」など、友だちとかかわりながら遊びや生活を展開していく点が共通していた。これは、5歳児の生活において、友だちと一緒に生活や遊びを創り出すことへの意欲が育ってくるためであると考えられる。一方、保育所においては配慮事項として4月10月共に生活への安定を重視していた。これは長時間保育であることにより、常時一人ひとりの情緒の安定を図る必要があるためであると考えられる。

以上から、幼稚園と保育所ではねらいの点では大きな違いがないことがわかった。幼児教育を行う場として、幼児の発達の方向性や実際の幼児の姿には大きな違いはないということである。但し、保育所では、3、5歳児共に配慮事項に「情緒の安定」の側面が継続して取り上げられている。保育所は保育時間が長時間である、家庭環境に配慮を要する幼児もいるなど情緒の安定を得るために保育者に甘えたり依存したりする幼児が年間を通して存在する。保育所では幼児一人ひとりの心身の健康を守る養護の側面を欠かせないのである。指導計画にも養護面で配慮されており、それはどの学年の乳幼児でも年間を通して行われているであろうことが推測できる。ここに、学校教育法第22条、児童福祉法第39条に示された幼稚園と保育所の目的の違いが表れているのである。(安達)

2. 教材選択の比較

幼稚園、保育所の保育室内にある教材について、3歳児、5歳児それぞれ4月10月時点で調査した。対象学級の担任が、保育室に置かれている教材を記録した。学年ごとに比較していく。

まず、3歳児について考察する。幼稚園では4月にブロック、プラレール、ぬいぐるみ、ままごと道具、粘土、紙とクレパスを数多く用意していた。10月にはこれらに加え形合わせ、スロープレールなどを設定した。幼稚園の場合、3歳児は集団生活が初めてであるため母子分離不安を示す幼児がいたり、友だちとのやりとりにストレスを感じたりする幼児がいる。幼児が家庭の雰囲気を感じ安心して自ら遊びを選択でき、さらに数量を十分に用意することで一人ひとりが満足できるまで取り組めるような配慮をしている。一人遊びが十分に堪能できるように配慮されている。

保育所では、4月には2歳児で使っていたままごと道具、ブロックに加え、お絵かき道具、粘土、様々な種類のブロックを数多く準備していた。保育所の3歳児は、2歳児の時に比べて学級集団が大きくなり担任は1名となる。進級児の不安を軽減するために2歳児で親しんだ教材を設定したり、教材の数を多く用意したりするなど幼児が安定して遊びに取り組めるよう配慮している。10月には、4月の教材に加えて、トランプ、かるたなどのカードゲームが設置されていた。保育所では乳児から入所していたり、長期の休みがなかったりと、幼稚園に比べると集団生活

に慣れ、子ども同士の関係も育っていると考える。そのため、10月には子ども達同士がかかわって遊ぶことのできる教材も合わせて設定してある。

次に5歳児について検討する。5歳児になると遊び方も多様になり、また幼児自身が遊びの中で自ら必要なものを用意する場面も出てくるため保育者はさまざまな教材を設定していることが明らかになった。その抜粋を表11に示した。

表 11. 教材抜粋 幼稚園・保育所 5歳児（4月・10月）

| | | 幼稚園 | | | | 保育所 | | | |
|------------------------|----|---------|----|--|------------------------|-----------|----|--|---------|
| | | 教材名 | | | 教材名 | 教材名 | | | 教材名 |
| | | 4月 | 1 | | | レゴブロック | 11 | | |
| | 2 | 大型積み木 | 12 | | 2 | 3Dジオフィックス | 12 | | |
| | 3 | 粘土 | 13 | | 3 | ドミノ | 13 | | |
| | 4 | 絵本 | 14 | | 4 | ラッシュアワー | 14 | | |
| | 5 | | 15 | | 5 | メモロンド | 15 | | |
| | 6 | | 16 | | 6 | メガタワー | 16 | | |
| | 7 | | 17 | | 7 | リモーザ | 17 | | |
| | 8 | | 18 | | 8 | 2色モザイクパズル | 18 | | |
| | 9 | | 19 | | 9 | 人形 | 19 | | |
| | 10 | | 20 | | 10 | ラキュー | 20 | | |
| ※主に製作などで使用される素材は載せていない | | | | | ※主に製作などで使用される素材は載せていない | | | | |
| | | 教材名 | | | 教材名 | 教材名 | | | 教材名 |
| | | 10月 | 1 | | | 大型積み木 | 11 | | |
| | 2 | 鍵盤ハーモニカ | 12 | | 2 | 3Dジオフィックス | 12 | | 花はじき |
| | 3 | マット | 13 | | 3 | ドミノ | 13 | | チェーンリング |
| | 4 | 影絵セット | 14 | | 4 | ラッシュアワー | 14 | | アイロンビーズ |
| | 5 | UNO | 15 | | 5 | メモロンド | 15 | | レンガ積み木 |
| | 6 | | 16 | | 6 | メガタワー | 16 | | 汽車セット |
| | 7 | | 17 | | 7 | リモーザ | 17 | | ZOO積み木 |
| | 8 | | 18 | | 8 | 2色モザイクパズル | 18 | | カブラ |
| | 9 | | 19 | | 9 | 人形 | 19 | | クーゲルバーン |
| | 10 | | 20 | | 10 | ラキュー | 20 | | トランプ |

幼稚園、保育所共に4月はブロックや粘土などが設置してあった。どちらも、進級してすぐは保育室が変わるなど環境に変化があるため個々で集中して遊べる教材を取り入れていた。一人ひとりが自分の好きな遊びを満足して取り組むことができることを重視した教材選択がされていた。

10月は使用用途が柔軟な素材や数名で取り組むカードゲームが設置されていた。友だち同士のかかわりが促されるような教材選択に配慮されていた。相違点として、幼稚園は4月と10月で撤去している教材があったのに対し保育所では撤去された教材はなく継続して同じ教材も設置されていた。また、設置されていた玩具の種類も豊富にあった。（表11）これは、幼

幼稚園5歳児では情緒の安定に配慮するのは概ね年度当初でよいのに対し、保育所では長時間保育の中で一人ひとりが自分のペースで過ごす時間を保障することも必要であるためと考えられる。保育者は一人ひとりが安定した気持ちで過ごすことができるよう遊び慣れた教材や家庭にも置いてあるような玩具を設置することでくつろぎの空間を演出したり、一人ひとりが満足度の高い遊びを経験したりできるように留意している。

このように、幼稚園では学年があがるにつれ幼児同士がかかわる遊びが充実するような教材を多く選択していくのに対し、保育所では学年にかかわらず常に情緒の安定や一人遊びの充実を図る教材を選択している。(小出)

3. 保育運営の比較

幼稚園と保育所では、保育時間に違いがあるだけでなく、保育室の使い方にも違いがみられることがわかった。表12にまとめた。

表12. 保育運営

| | 幼稚園 | 保育所 |
|----------|---|--------------------------------------|
| ＜保育利用時間＞ | | |
| 基本保育時間 | 8:50～14:00 | 8:30～17:00 |
| 基本保育時間外 | 8:20～8:50/14:00～17:00 | 7:00～8:30/17:00～19:00 |
| ＜保育室利用法＞ | | |
| 基本保育時間内 | 異年齢の出入りがほとんどない | 1～5才まで自由に出入りができ交流が多い |
| 基本保育時間外 | ・基本保育時間に使用していない保育室に移動し時間外保育を行う ・3～5歳合同で過ごす | ・基本保育時間に使用していたクラスを使う ・1～5歳が合同で過ごす |

基本保育時間内では幼稚園では保育室に異年齢の幼児が入ってくることはほとんどないのに対し、保育所では様々な学年の幼児が保育室に出入りしている。その為、教材選択にも違いが見られると考える。幼稚園は主にクラスでの遊びを考えて教材選択を行うが、保育所は様々な年齢が共に遊ぶことを考慮した教材選択になっていると考える。

また、生活時間にも違いがある。幼稚園は4時間が標準となっており、時間外保育時間を含めて8時間ほどである。一方、保育所は8時間保育を原則としている。延長保育を含めると12時間保育となる子どももおり、室内で過ごす時間が長い。子どもの生活リズムや保育時間等に応じて活動のバランスを図る必要がある。その為、一人ひとりが満足し、豊富な選択肢の中から玩具を選び、自分の遊びに取り組めるような教材選択がされているのである。

基本保育時間外の時間帯の保育室の利用にも違いがあった。基本保育時間外とはいわゆる早朝、延長保育の時間帯である。幼稚園では別に専用の保育室を確保しているのに対し、保育所ではある保育室を延長保育用に夕方から兼用している。ここでも様々な状態の幼児が過ごすために多様な教材を用意する必要がある。

保育運営や施設設備の状況で保育室環境は違いが出てくる。保育所は長時間保育のため、保育室も多機能にならざるを得ずその点においても保育者に創意工夫が求められるのである。（尾田）

V. まとめと今後の課題

幼稚園と保育所の保育室内環境について比較，検討を行ってきた。その結果，以下のようなことが明らかになった。

- 1) 年度当初には学年にかかわらず幼稚園，保育所共に幼児の情緒の安定を図るための環境設定が行われている。
- 2) 保育所では3歳児，5歳児共に年間を通して情緒の安定を図るための配慮をしている。
- 3) 保育所の3歳児は10月には友だち関係が育ち簡単なゲーム等を楽しむことができる。
- 4) 幼稚園の3歳児は10月になっても時間の流れなど保育の展開に変化があると不安定になりやすい。些細な環境の変化に配慮が必要である。
- 5) 幼稚園の5歳児は10月になると友だちとのかかわりを軸に遊びが展開され幼児のアイデアによるさまざまな教材の使い方や継続した遊びの取り組みがみられる。そのため保育者は幼児の要求に応えるため多様な教材を準備している。
- 6) 幼稚園ではある学級の幼児が自分の学級の保育室をほぼ専有でき，継続して環境を維持できるのに対し，保育所では保育室の用途が変化するため遊び場を保存しておくことが難しい。

保育所は、「保育に欠ける」乳幼児（児童福祉法）を対象としており，乳幼児の心身の健康や情緒の安定を図る「養護」（保育所保育指針）の側面についての配慮が欠かせない。本研究で保育環境を分析して保育者の意図を考察した時，保育所と幼稚園ではこの「養護」側面からの保育者の配慮に最も大きな違いがあった。長時間保育は幼児にとって，体力，心理両面から負担がかかる。今後，幼稚園も認定こども園に移行し，保育時間が長くなる可能性がある。幼稚園，保育所共に家庭保育の補完的な側面，長時間保育の側面から幼児の安定を図る環境や配慮について改めて考えていく必要がある。また，各園の実態や保育運営によって，保育者の配慮に違いがみられたので，さまざまな保育現場の事例を収集していきたい。（梶島）

引用文献

学校教育法（昭和22年，平成23年一部改正）。第22条，第26条

児童福祉法（昭和22年，平成24年一部改正）。第39条

児童福祉施設最低基準（昭和22年，平成23年一部改正）。第34条

厚生労働省編（2008）保育所保育指針解説書 フレーベル館 pp.20-25

文部科学省（2008）。幼稚園教育要領解説 フレーベル館 p.2571.9-10

内閣府・文部科学省・厚生労働省（平成24年）子ども子育て関連3法について 厚生労働省 pp.2-12

参考文献

学校教育法施行規則（昭和 22.5，平成 24 改正）

児童福祉法（昭和 22.12，平成 24 改正）

子ども子育て支援法（平成 24.8）

厚生労働省編（2008） 保育所保育指針解説書 フレーベル館

文部科学省（2008） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

T. ハームス, R. クリフォード, D. クレア著（2004） 埋橋玲子訳 保育環境評価スケール①幼児編
法律文化社

（2013.9.25 受稿, 2013.10.28 受理）